

アニマルランド NEWS

わんぱーくこうちアニマルランド
№102 Oct 2022



- ・ カムリシロムクの巣立ち
- ・ 長生きしてくれてありがとう
- ・ パンケーキリクガメのフ化

4月から9月

- ～4/3 わんぱーくこうちまつり
- 4/3 アニマルランド クイズラリー 開催
- 4/6 臨時開園
- 4/29 カブトムシの飼い方教室 開催
- 5/7 カムリシロムク フ化
- 5/11 ニホンカモシカ「テナア」 搬出
- 6/21 公式Twitter 開始
- 7/14～9/13 企画展「フォトコンテスト作品展」 開催
- 7/17 移動水族館「足摺海洋館SATOUMI」 開催
- 8/10 臨時開園
- 8/27・8/28 「こども裏側探検隊」 中止
- 8/31 公式 Facebook 終了
- 9/15 動物紹介「アビシニアコロブス」 開始
- 9/18 移動動物園 台風のため延期
- 9/19 台風の為 臨時休園

カブトムシの飼い方教室



たくさんの方が参加してくれました。
みなさん真剣に話を聞いて、飼い方を教わっていました。

赤ちゃん誕生



ヨーロッパフラミンゴ



コールダック



モルモット



パンケーキリクガメ



オシドリ



ショウジョウトキ

のできごと

移動水族館



足摺海洋館「SATOUMI」との交流イベントをおこないました。ナマコ、ヒトデ、ヤドカリ、ウミウシなどがやってきました。暑い中での開催でしたが、大盛況となりました。

動物紹介



アビシニアコロブスについて、担当者が詳しく解説しました。

フォトコンテスト作品展



開園30周年目前に初めての写真コンテストを開催しました。全国から多くの方に応募していただき、素晴らしいコンテストになりました。

敬老の日



敬老の日は、台風の影響で臨時休園となりましたが、ごちそうを食べて満足そうでした。

カムリシロムクの 巣立ち



カムリシロムクは世界的に希少な鳥で、絶滅が心配されています。アニマルランドでは2004年より飼育を開始し、四国内で当園以外では見ることはできません。そんなカムリシロムクが今年繁殖しました。

カムリシロムクとは体長25cm程の大型のムクドリで、スズメ目ムクドリ科に属しています。翼の先端部と尾羽の先端部が黒く、他のほとんどの部分が白く美しい体色をしています。中でもくちばしから目の周りにかけてはコバルトブルーをしており、ひときわ目を引きまします。体色以外に鳴き方にも特徴があり、性特異的なコール、交換コール、高く澄んだwhitiyewという鳴き声、おしゃべりといった4つのパターンに分類されています。中でもおしゃべりと言われる鳴き声を、はじめて聞いた時はかなり驚きました。飼育の清掃作業は基本単独で行うことが多く、当然自分の作業音と展示鳥類の声しか聞こえないのが通常でした。しかしときおり四十代後半の男の声が聞こえてくるのです。それも何かしらぶつくと不満を語っているようでしたが、内容までは聞き取れません。あたりを見渡しても誰もいないし、ガラス展示なので来園者の声が聞こえるはずもありません。この「おじさんのつぶやき」がおしゃべりといわれる鳴き方で、いつかうまく録音できれば、来園者の方々にも是非聞かせてあげたいと思うくらいの面白さを感じました。

野生での生息地は、インドネシアのバリ島にのみ生息しており、近隣の島でもほとんど確認されていません。森林部より少し開けた場所を好む傾向があり、初めて発見された時も海岸沿い低地以外では見つからなかったと記載されています。

美しく様々な鳴き方を持ち、非常に愛らしいカムリシロムクは、密猟の対象にされることと生息環境の悪化により、野生での個体数がさらに減少しています。そのため世界的に飼育下での増殖がおこなわれています。アニマルランドでは、横浜市とインドネシアの保護事業に協力するため、2004年3月に横浜市繁殖センターよりカムリシロムクを借受け飼育をはじめました。初期のペアから現在まで何度か個体を交換し、7羽の繁殖に成功しました。その後、その時々での繁殖制限や、繁殖センターへの返却などがあり、5年ほどオス同士の親子2羽を飼育していました。闘争が見られるときはどちらか1羽のみの展示をしていました。

この度、飼育中の親子2羽を繁殖センターに返却し、かわりに2021年11月8日新たなペアを導入しました。新たなペアは横浜市繁殖センターで繁殖経験があると聞いていたので少し安心していたのですが、前に飼育していた個体とは様子が違うことがすぐにわかりました。



直前まで飼育していたオス個体たちは、よく鳴きおしゃべりも多く、ディスプレイも頻繁に見られました。しかし新たなペアは、人間をかなり警戒しており、毎日同じ時間に作業に入っているにもかかわらず、飼育展示場内に入ると天井近くまで登り、作業終了までほとんどおりてくることはありません。これほどストレスを感じている状態で果たして繁殖させることができるのかと、不安を抱えつつ、準備を始めました。

巣箱を設置し4月下旬にはペアが交互に巣内にいることを確認し、5月7日に初めて巣内から声が聞こえました。それからはオスもメスも大忙し、せっせと巣内にミルワームを運んでいました。多いときには大型のミルワームを一日に50匹ほど食べていました。しかしよく観察しているとあることに気が付きました。何度かに一度、ヒナにエサを運ぶ前に、ちゃっかり自分達も食べていたのです。当たり前のことですが、子育てはやはり疲れるのでしょうか。自分たちも栄養補給しなければ、ヒナを立派に育てることはできません。命をつなぐ大変さに共感する部分を感じ、温かい気持ちになりました。いつもミルワームを運んでばかりの姿を見ていましたが、ある日メス親のくちばしに黄色いものが見えペレットを運んでいることが分かりました。

そして5月31日の10時ごろ、巣箱入り口から初めてヒナの頭を見ることができました。その時見ることもできたのは頭だけでしたが、まだまた幼い感じで頭周辺の羽は生えそろっておらず、周りをきょろきょろ見渡していました。その姿に気づいたメス親はまだまだ心配なのでしょうか、まるで巣内に戻すようなそぶりで急いで巣箱に向かい、入口に止まってふさいでいました。親の心子知らずとは人も鳥も同じなのでしょうか、ヒナは親が遠ざかるとすぐにまた顔を出し、その行動を繰り返していました。そして30分も経たないうちに巣穴入り口に設置した止まり木に立ち、初めて全身を確認しました。巣立を確認した後その場を離れ、他の業務に戻りました。数時間後に様子を確認に行くと、ヒナはまた巣箱に戻っており、その日はその行動の繰り返し、出ている時間は長いもののまだ飛ぶ決心が固まらないのか、そのまま終業時間となりました。

次の日の朝8時に、真っ先に確認に行きました。すると巣箱周辺にはヒナの姿が見えません。親たちも特に取り乱した様子もなく、巣箱に戻ったのかと展示場内を見渡すと、お客様側のガラス面のふちにヒナが下りていました。驚いて、まずはどこかケガしていないか、いろいろ頭を巡らし私の脳内はちょっとしたパニックでした。しかしヒナはなかなか捕まってくれません。うまく木の陰から陰へ移動し、私から一番遠い場所にするすると逃げ回りました。やっとの思いで捕獲すると、私の手を攻撃してくるほどの元気さで、外傷がないことを確認しました。まずは一安心し、体重を測定すると61gありました。まだ飛ぶことはできず、親にエサをねだるようなしぐさも見られました。それからの成長はあっという間のことでした。エサ場を増やすと、親の位置を気にしながら自分からエサ場にいち早く向かい、ササッと好きな物だけ食べ、その場を離れる日々が続いています。

決して仲が悪いわけではないのですが、以前からオス親とメス親は微妙な距離感を保ち、つかず離れずといった様子が見られました。最近のメス親は、オス親が近付いてくると、スーッとかわすようにヒナの方へ寄っていく姿が何度か確認され、オス親がヒナを軽く威嚇すると、ちょうど中ほどの位置に移動し距離を取ってかばっているようにも見えます。

朝展示場を見ると、時折少し接触があったような痕跡が見られますが、特に大きな問題はないので、このままの展示で様子を見ていく予定です。ヒナはいまだにオス親のことが少し怖い様子で近くにはあまり行かないので、この関係が続き長く親子の展示が続けられればと思います。(山崎博継)





長生きしてくれて ありがとう！



2000年4月にわんぱくこうちアニマルランドの飼育員に採用され、今年で22年になりました。今までに色々な動物の担当になりましたが、今回は、自分が育てた保護動物「傷病野生鳥獣」のその後のお話をしようと思います。

最初に人工哺育を経験した野生動物はハクビシンです。2001年8月に高知県大豊町で保護された2匹のオスとメスの赤ちゃんでした。私にとって初めての人工哺育だったので、先輩方に助言をいただきながら、犬用ミルクを3時間おきに与えていました。担当動物の世話の間に人工哺育を行うので、なれない作業はまだ飼育員歴1年の自分には大変だったことが思い出されます。2匹とも順調に成長し、オスは『ハク』、メスは『チヒロ』と名付けました。ハクビシンは夜行性動物なので来園者がいる日中はあまり動かず、2匹並んで木の上で寝ている姿をいつも見る事ができました。

2018年に『チヒロ』が17歳で肺腫瘍はいしゅようのために死亡し、そこからは『ハク』1匹の展示となりました。現在は21歳と高齢ということもあり、展示場ではなく裏の寝室に移動しました。毎日バナナや蒸したサツマイモ、ゆで卵などを完食しており、まだまだ元気に暮らしています。

次に育てたのはムササビです。2002年2月に現在の高知県仁淀川町で保護された2匹のオスとメスの赤ちゃんでした。前年のハクビシンの人工哺育の経験があったのですが、自宅に連れて帰り夜間もミルクを与える事が大変でした。その当時は自宅から動物園まで自転車通勤だったので、毎日2匹を入れた靴用の箱をリュックサックに背負って、片道30分を行き帰る生活でした。動物を背負っているためどこにも寄る事ができず、一度帰宅してからまた自分の夕食を買いに行く毎日に酷く疲れた思い出があります。

そんなムササビも順調に成長し、オスの『トム』とメスの『ミグ』と名付けました。『ミグ』は2003年に国内の動物園で初めて屋内施設での繁殖はんしよくに成功し、その後4匹の子宝に恵まれました。2020年には『トム』が18歳で死亡しました。肺腫瘍でした。現在は20歳となった『ミグ』1匹を展示しています。『ミグ』は最近少し食欲が落ちてきていますが、それでもリンゴやパンはかじっています。そしてなぜか今まで残すことが多かったニンジンが急に好物がだいになったようで、好みの変化に驚かされています。

自分が育てた動物が長生きしてくれることは飼育員の生き甲斐の一つだと思います。保護動物は基本的には野生に帰すため、その動物のその後を知る機会がありません。今回の2例のように飼育動物になった場合は最後まで見る事ができます。これからも色々な動物たちの健康に気を付けて、飼育業務をおこなっていきたくと考えています。

※ ハクビシンの寿命は野生では約10年、飼育下では15～20年ほど。ムササビの寿命は野生では6～10年、飼育下では約15年ほどと言われています。

(大地博史)



若いころのトムとミグ



ハクビシンの子ども





パンケーキリクガメのフ化



2022年、4匹のパンケーキリクガメがフ化しました。その4匹ともアニマルギャラリー内の展示場で自然フ化し、順調に成長しています。

パンケーキリクガメはケニア、ザンビア、タンザニアなどのサバンナや乾燥した低木林などに分布しています。夜行性で甲長は10～20cmほどです。植物性の強い雑食性で、主に乾燥した草類や多肉植物、昆虫などを食べます。甲羅は薄くやわらかく、平べったい形です。パンケーキリクガメは岩と岩のすきまや岩の割れ目などせまい場所に体をもぐり込ませ、空気を吸い込んで甲羅をふくらませます。四肢を突っ張るようにして外敵から引きずり出されないように身を守ることができます。他のリクガメはよじ登るなどの縦の動きはほとんどありませんが、岩場に住むパンケーキリクガメは登る行動も得意です。現在、国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストで絶滅危惧種（CR）に指定されており、さらなる個体数の減少が心配されています。

今回4頭のパンケーキリクガメがフ化したのには、正直私がビックリしています。それぞれ、5月22日、7月3日、7月28日、8月10日にフ化しました。このうちの2匹は私が展示場を確認した時に、フ化しているのを見つけました。私は今年の6月からパンケーキリクガメの担当をしていますが、フ化日数は約150～200日ほどなので、今回フ化した4匹とも私が担当になる以前に展示場で産卵していたと思われます。動物園では通常、パンケーキリクガメなどの熱帯性のカメの卵は、人工孵卵器で温度や湿度を管理し、フ化させます。今回の様に飼育環境でフ化することはめずらしいことです。人工孵卵器ではなく、飼育環境でフ化したということは、現在の展示場内がパンケーキリクガメにとって適した環境なのだと思います。

アニマルランドではパンケーキリクガメのエサに小松菜、サニーレタス、トマト、カメ用ペレットなどを与えています。葉物の野菜が好きでよく食べ、食べた後はシェルター（隠れ家）に隠れることが多いです。それぞれの個体を識別するために甲羅に印を付け、体重測定や状態の確認などをし、成長具合のチェックを行っています。アニマルギャラリー内の展示場で元気に動きまわっていたり、エサを食べている様子も見ることが出来ます。ぜひ、パンケーキリクガメを見に、アニマルランドに遊びに来てください。（山本将充）



後肢で穴を掘って産卵



幼体



卵



今回、生まれた4匹

あにまるきゃっち☆

№34



朝、晩が涼しくなってきた9月下旬
スマトラトラ展示場前でキャッチ☆

左から

森 ^{ゆうき} 勇貴さん

一華ちゃん(0さい)

郁江さん ^{いくえ}

高知市からのご来園です。
一華ちゃんはこの日がアニマルランド
デビューでした。
クロシロエリマキキツネザルに興味津々
だったそうです。チンパンジーは少し
怖がっていたようです。

10月から3月のイベントとお知らせ

開催中～12月13日(火)
動物紹介「アビシニアコロブス」

11月23日(水)
臨時開園

11月24日(木)
臨時休園

11月下旬予定
いきもの講座

12月15日(木)～1月31日(火)
えと展 開催

※年末年始の休園
12月28日～1月1日

3月下旬から4月上旬予定
わんぱくこうちまつり

3月29日(水)
臨時開園

日・祝 14:30～
ワンポイントガイド
動物の解説を飼育スタッフがおこないます

中止や延期がある場合があります。
ホームページ、Twitter、園内掲示で
お知らせします。

ふれあい広場開放時間

新型コロナウイルス感染症の状況により、閉鎖して
いる場合があります。
2021年4月1日から以下の時間に変更しています。

・10:30～12:00
・13:00～14:30

※ 7月～9月は、動物が暑さで弱ってしまうため
お休みしています

表紙 「カムリシロムクの巣立ビナ」

2022年10月1日発行
発行・わんぱくこうちアニマルランド
〒781-8010 高知市棧橋通6-9-1
TEL088-832-0189 FAX088-834-0929
Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp
編集 山本将充 久川智恵美

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/>
アニマルランドニュース 4,10月の年2回発行
ホームページでも配信中

わんぱくこうちアニマルランド 検索